

方針決定

『病院統合』 『ララオカヤ再整備』 『大学誘致』

市では3月までに一定の方針を出すとしてきた『市立岡谷病院と健康保険岡谷塩嶺病院の統合』、『岡谷駅前市街地再開発ビル“ララオカヤ”の再整備』、『芝浦工業大学新学部誘致』の3つの施策について、市民のみなさんを交えた懇話会などの意見・提言も踏まえ一定の方針を決め、2月16日(水)に開催された市議会全員協議会へ報告しました。

岡谷病院 塩嶺病院

平成18年度経営統合を目指す

経緯

岡谷市には、市立岡谷病院と社会保険庁からの経営受託病院である健康保険岡谷塩嶺病院の2つの公立病院があり、両病院とも長い歴史の中で、地域の中核病院として重要な役割を担い、その使命を果たしてきました。しかし、度重なる診療報酬の抑制や第4次医療法の改正、健康保険法の改正など国の医療制度改革が進み、病院を取り巻く環境が大きく変化するなかで、病院経営が厳しくなってきました。今後の医療行政を考えるとの認識を持ち、平成15年10月に「岡谷市病院運営会議」を、同年12月には各種団体の代表者や公募による市民のみなさんからなる「岡谷市病院懇話会」を設置し、2つの公立病院が抱える様々な問題を踏まえ、病院の統合と機能分担の問題に取り組んできました。

現在の状況

市立岡谷病院 典型的な自治体病院として、市民のみなさんに対して裾野の広い一般医療を提供してきました。現在、市立岡谷病院経営健全化5か年計画(H

12)16年度)最終年度でありますが、経営の改善および医師不足の課題をかかえている状況です。



市立岡谷病院



健康保険岡谷塩嶺病院

健康保険岡谷塩嶺病院 心疾患等の分野で高度な専門病院としての位置を確立するとともに、検診センターや緩和ケア病棟を持つなど幅広い医療を行っています。母体である社会保険庁からの支援が平成16年度から得られていない状況です。

方針・対応

国の医療政策の改革に伴って、病院の機能分化、効率化、集約化、

また病院経営の悪化・施設の老朽化の課題等は避けて通れない問題であります。市では、長期的な視点に立って市民のみなさんの生命と健康を守る医療体制を継続的に確保するため、

- 平成18年度を目標に市立岡谷病院と健康保険岡谷塩嶺病院の経営を統合する。
- 平成17年度に岡谷市病院統合基本計画を策定し、新病院建設に向け具体的な課題の検討を行う。
- 新病院の基本設計、実施設計など病院建設の事業化段階での検討は両病院の経営統合後、新しい体制で進めていく。

この方針を決定しました。

今後は両病院の経営が統合されることから新病院が建設され施設が一本化されるまでの間の体制について、両病院を主体として庁内の検討を行うとともに、岡谷市病院統合基本計画において、新病院で想定される診療科目の選定や適正ベッド数の算定など調査を行っていきます。

ララオカヤ再整備へ向け素案示される

経緯

ララオカヤは、岡谷市が実施した都市計画事業「岡谷駅前第一種市街地再開発事業」により、昭和59年に完成した鉄筋コンクリート4階建ての一部5階建ての再開発ビルです。ビルの約90%を所有する諏訪バス株が、イトーヨーカ堂とアップルランドをキーテナントとする商業施設として、管理運営を行ってきました。

しかし、平成13年7月にイトーヨーカ堂が撤退。その後、諏訪バス株において商業施設としての再生に向けて懸命な努力を続け、新たな大型店舗等の出店もありましたが、結局これらも撤退。14年6月以降は、地元権利者と一部テナントだけが、ビル1階の一部で営業を続けています。



現在のララオカヤ

市では、岡谷市の玄関口に位置し、市の顔でもある岡谷駅前のララオカヤの活性化が、極めて重要な課題と捉え、16年6月に諏訪バス株所有の床（土地・建物）を1億7127万5千円で岡谷市土地開発公社において先行取得し、以降、一部改修工事を経て、1階部

分の活用を図るため、チャレンジショップ、レンタルボックス、市民広場、イベント広場からなる「ララ・チャレンジ広場」として10月16日リニューアルオープンしました。

現在の状況

リニューアルオープン以降も、飲食を中心とする地元権利者および周辺商業会は引き続き厳しい営業を続けており、イベント等の実施時は、一定の効果が見られるものの、活性化に向け抜本的な対策の実施がむずかしい状況です。また、年間で約6000万円の維持管理費等がかかり、市の財政運営に大きな負担となっています。

方針・対応

市では、本年度実施した「岡谷駅前再開発ビル再整備基本計画調査」で示された内容を素案とし、平成21年を目標に、地権者との調整、商業・業務施設等の入居者の募集・調整、補助事業採択に向けた国・県との協議を進め、できるだけ早く再整備を図っていきます。

主な再整備内容(素案)

事業手法：国土交通省住宅局の補助事業の「優良建築物等整備事業」を採用(予定)



再整備のイメージスケッチ

整備内容：約7200㎡の敷地に都市型の集合住宅と店舗、公益施設の入った複合棟、業務棟、駐車場棟を整備します。複合棟は9階建てで、1階は既存店舗も含めた飲食店を中心にした商業スペース、2階は健康・医療に関連した公益施設を、3階から9階までは住宅とし56戸を整備していく予定です。業務棟は4階建てでオフィススペースに、駐車場棟は地下2階の3階建てで230台の駐車を確保する案となっています。

駅周辺をはじめ中心市街地活性化に向け、民間活力などを導入し、岡谷市の玄関口にふさわしい施設として、17年度はこれらの内容を素案に、具体的なスケジュールも含め実効性のある基本計画を策定していきます。

芝浦工業大学新学部誘致 8月に結論へ

現在の状況

去る2月8日(火)に芝浦工業大学より現状の報告があり、平成18年4月に予定しているキャンパス移転問題(現在の田町から豊洲へ移転)が最優先であり、岡谷市への新学部設置については理事会での議論が進んでいないこと

○江崎学長が3月末をもって退任することとなり、4月に就任する新学長との意見調整が必要となったこと
から、大学としての回答を8月まで待っていただきたいとの申し出がありました。

方針・対応

岡谷市にとって大学誘致は永年の夢であり、施策の大きな柱であることから、

- 大学が結論を出す今年8月まで引き続き誘致活動をしていく
- 大学から結論が出された時点で市として最終的な判断をする
- 工業における産学連携を強化・充実させるとともに、生涯学習を含めた教育などの分野での連携を模索する

との考え方で進めていきますので、市民のみなさんご理解をお願いします。